

はと時計

2023年全校読書運動

「世界」

コロナ禍からの活動回復が進み、徐々に海外との交流も増加してきています。これまでにはできなかった様々なことに挑戦し、生活を革新させることも可能になってきました。しかし改めて世界について考えてみた時、私たちはどれほど個々の国々を取り巻く情勢や歴史、文化等を理解できているでしょうか。これを機に、そういったことに少しでも関心を持ってもらえればと思います。

また、「世界」は「この世界」と言ったように「特定の領域」を表す場合もあります。自分の興味がある特定の領域について、今一度読書を通じて深く知る。さらには自分の「外」と認識していたこれまで深く関わってこなかったような分野について知り、自らの「世界」と関連付け比較し、刺激を得ることによって、より豊かに興味の幅を広げていくきっかけになればと思います。今年でPOPを作成します。自分でキヤッチコピーを考えましょう。

—
 中高生向け 8pから
 高校生向け 17pから

中学生向き

『スマホ脳』新潮新書 アンデシユ・ハンセン著 久山葉子訳 2020
 人間は、周りの世界を目というより脳で見ているらしい。ほら、寝ている時の夢は、目をつぶっているけど見えるでしょ、と言われると妙に納得だ。とはいももの、肝心かなめのその脳に、大変なことが起こっているらしい。「テレビっ子」という言葉があったが、「スマホっ子」ならぬ「スマホ人間」は、脳が着実に「スマホ脳」へと変質しているという。

人間は自らをどんな危険にさらしているんだらうか。大人だけでなく子供まで巻き込んで、まるで



—
 壮大な実験をしているみたいだ
 (「まえがき」より)

念願かなってスマホデビューを果たした中学生の皆さん。あなた自身の実験台だ。実験室に入って間もない今こそ、この本を読むベストタイミングだ。「スマホ脳」が見る世界と、そうではない「脳」が見る世界はどう違うのだろうか。未来にその答えを尋ねたい。

(N・A)

『あなたを閉じ込める「ずるい言葉」』森山至貴著 WAVE出版 2020

怖い本。あなたを狭い世界に閉じ込めようとする大人たちへの反撃の本。ひよっとしたらあなたの世界観に影響を及ぼすかもしれません。私も少し世界観、変わりました。例えば「あなたを閉じ込めると…」言葉の例をいくつか挙げるよ…「あなたのためを思って言ってるんだよ」とか「傷ついたのでいい経験だったんじゃない？」など。言われても、

なぜか釈然としない。かばい、力づくの、なぜ? そのてあななが納得できないう抜け出せ、いとき、この本はい、納得できないところ、い世界からの「抜け出し方」を書いてあるところ。それも単に大人を言いたくなく、負かすというようなセコイ話ではなく、どのように考えどのよう言動を取ることが、あなたの世界を守り広げること、あなたの生き方を応援してくれ、そんな話、盛ります。 (図書館にあります)

『いとエモし。』 —— 超訳 日本の美しい文学』 Koto 著 サンクチュアリ出版 2023 著

先日、中2の皆さんが清少納言の『枕草子』の冒頭を暗記していたのを見ました。『枕草子』をほめた『万葉集』『古今和歌集』『徒然草』『平家物語』など、国語の時間に習う名だたる古典作品の一節が皆さんの年代の感覚にぴったりな現代語に訳されています。息をのむような美しいイラストとともに読む先人の声は、きくとともに心強く揺さぶることで、新しい言葉とイラストが作り出す新感覚の「古典の世界」を楽しんでほしいと思います。



『14歳からのSDGs——あなたが創る未来の地球』 水野谷優、國井修、井本直歩子、林佐和美、加藤正寛、高木超著 明石書店 2022

SDGs という言葉はみな一度は聞いたことがあるでしょう。でも2030年までにある7年しかないというのを意識している人は少ないのではないのでしょうか。中学生の皆さんが大学生になる頃のこと、そう遠くない未来の話です。

17の目標については数多くの解説書が出ていますが、この本のいいところは、その目標達成に向けて活躍している人のお話や、関連する本や映画の紹介、様々な取り組みが私たちが身の回り社会とどうつながっているのかという話題が、自分にとっての記事をスタンプして、自分で気になる記事をするという

ト時点として、自分たちの未来のために考え始めてみませんか。 (K・Y)

『キラキラ』 シンシア・カドハタ 著 代田亜香子訳 白水社 2004

Within any one country there are many cultural "worlds" and many ways to view the world. Katie and Lynn Takeshima live in the USA. They move from an area with many Japanese people to an area with none. Lynn teaches Katie about her worldview of kirakira in everything and Katie tries to remember it throughout her struggles.

『世界はフムフムで満ちている 達人観察図鑑』 金井真紀著 ちくま文庫 2022

たった見開き2ページの間に著者の独自の感性が溢れた、様々な「仕事の達人」についての観察記録です。すべてのページが、ふんわりと優しいイラストと文体とで構成されています。おり、とても読みやすい作品です。何気なく描写されているのですが、かなり鋭く真理に迫っている部分もあり、一つひとつの話が魅力的で

(A・H)

共感できます。様々なプロの世界を垣間見られる面白い一冊です。

(Y・K)

『ガリバー旅行記』シヨナサン・スウィフト著 柴田元幸訳 朝日新聞出版 2022

安直な発想しかできない私は、「世界」と言われると、「旅」が思い浮かびます。未知の世界への憧れです。子ども頃の読んだきり(それも児童文学全集の簡略版)でしたが、3年前に朝日新聞で新訳による連載が始まり、昨年書籍化されました。新訳版は少し高価になりましたが、古い訳(でも名訳)で文庫本も何種類か出ています。ジブリの「天空の城ラピュタ」のモデルにもなった島や、実名で日本も登場します。物語自体の面白さを楽しむだけでもいいと思いますし、海を越えて旅するガリバーを通して現代文明を見つめ直すこともできるのではないでしょうか。(H・W)

『クマのプーちゃん』A・A・ミルン作 石井桃子訳 岩波少年文庫 2000

クマが大好きな私にとって、クマのプーさんはデイズニーキャラクターの中でも大好きな存在です。プーさんのお話を読んでほっこりしてもらえると嬉しいです。(M・S)

『旅のラノス』筒井康隆著 新潮文庫 2014

失われた文明の、その後の「世界」を旅するラゴスの物語。スタジオジブリの「風の谷のナウシカ」を観たことがある人なら、トリウマを駆って砂漠をゆくユパ様の姿が脳裏に浮かぶのではないでしょうか(このお話でラゴスが乗るのはスカシウマです)。「壁抜け」や「集団転移」といった、魔法あるいは超能力のようなもの?まで登場し、ファンタジーな世界観かと思いきや、そこかしこに散りばめられた、私たちの知っている文明の名残りのようなもの。ラゴスと一緒に「世界の終わり」を旅してみませんか?

(H・M)

『Māori : A Journey into Māori culture』 by Linda Boosen Independently published 2021

Kia Ora! This book has very high quality photographs. This book is about the Maori people and Maori culture and is written for young kids so the English is not difficult. As

students know, we have a special relationship with St. Peters' in New Zealand so I recommend this book for students to learn more about Maori culture. Learning about Maori has become very important for New Zealand as a country in recent years and there are many similarities with Japanese culture as well. Why not learn about a new culture in English?



(D・H)

『ゲド戦記』ル・ゲウイン作 砂子訳 岩波少年文庫 2009

言わずと知れたファンタジーの名作。大魔法使いオジオンに見出されたゲド。魔法の力に磨きをかけようとしたゲドが禁じられた呪文で、自分の影を呼び出してしまい……。ジブリの映画もありますが、全く別ものとして楽しんでみてください。(M・T)

『木曜日には「コア」を』
 青山美智子著 宝島社文庫 2019
 住宅街にある小さな喫茶店「マリブル・カフェ」のお話。ミステリーや恋愛小説のようなドキドキはないけれど読むと心がほっとします。テーブル席3つとカウンター5席の小さな世界から始まるお話を読んでください。(H・T)

『シユレーディングの少女』 松崎有理著 創元SF文庫 2022
 読書をするのが苦手な方や嫌いな方におすすめるのは「シユレーディング」の少女」という本です。この本は、1話完結の話を集めた短編集となっております。例えば、65歳に

なる例外なく死が訪れるようにプログラムされた世界や、数学が禁じられた世界など、「少女×デバイス・ピア」をコンセプトとした話が全部で6話掲載されています。中でも印象に残っているのは秋刀魚がなくなつた世界の話です。秋刀魚がなくなつた世界で、主人公が曾祖母や、



水族館の飼育員、炭火焼職人などの情報を頼りに秋刀魚の塩焼きを再現しようとしたのがとても面白かったです。この本に掲載されている話も短いため、本を読むのが苦手な人でも気楽に読むことができます。綺麗に完結するのでしっかりと読みごたえもあります。本が好きな人も、苦手な人にもたくさんの人におすすめることができる一冊となっております。(M・N)

『世界で一番美しい元素図鑑』 セオドア・グレイ著 武井摩利訳 ニック・マン写真 創元社 2010
 結局のところ、世界は原子が組み合わさってできています。皆さんのケータイも、松蔭も、そして皆さんの身も…。その原子の種類のことを「元素」といい、今ではおよそ120種類が知られています。

この本はその元素のカタログです。大きくて少し重い本ですが、まずは手に取って見てみてください。はじめは写真を見るだけでOK。何度もペー지를めくる手が止まるはずですよ。とても美しい写真です。そのうえで、「これは何だろう？」と思ったら、文章に目を通してみてください。皆さんの世界が少しだけ広がります。本当です。(Y・O)

『びりっかすの神さま』 岡田淳作

偕成社文庫 2006

今年度のテーマは「世界」。小学生の頃は、「うち」と「学校」こそが「世界」だったと記憶しています。4年1組の教室にやってきた転入生が、教室で、背中に翼のある、くたびれた背広とよろよろのネクタイを身に付けて、すきとおつた小さな男を見ます。この男は「びりっかすさん」。びりっかすさんが見えるようになる。さらに！びりっかすさんが見えるようになってからは、お互いにテレパシーで声を出さずに話せるようになってしまふ。なんて楽しいんでしよう！このクラスはどうなってしまうんでしょう？そして、びりっかすさんの正体は？：ミステリーの香りもして、とにかくおもしろいから、ぜひどうぞ！『ムンジャクンジュは毛虫じゃない』とか『二分間の冒険』とか『雨やどりはすべり台の下で』とか『きかせたがりやの魔女』とか、岡田先生の本はどれもこれもとってもおもしろいです。大人になつてから読むと、人の多様性、世界の多層性なんてことも考えちゃいます。(M・U)

『自閉症の僕が跳びはねる理由』 東田直樹著 角川文庫 2016

この本の著者は重度の自閉症でありながらも、パソコンや文字盤を使ってコミュニケーションをされる方です。その言葉から、普段私たちが何気なく過ごしている日常の景色です

ら、違う視点で見ればとても美しく、興味深いものと思えることを教えてくれます。そして、気持ちを伝えることが困難な自閉症の方の思いを感じることや、改めて相手を知ることの大切さや思いを伝えることの大切さに気付くことができず。

感じ方やもの見方が大きく違う自閉症だから特別なわけではありません。障害の有無に関係なく、同じ世界を生きていても私たち一人ひとりの個性や特性、価値観の違いなどで、感じ方や見えてくるものはそれぞれ違ってはいるはず。その差が大きいかわからないの間違いなのだと思います。ぜひこの本で自閉の世界を少しでも感じてもらって、理解に繋がればいいなと思います。

(M・I)

『カモメに飛ぶことを教えた猫』
 ルイス・セプルベダ著 河野万里子
 訳 白水Uブックス 2019

わたしがこの小説に興味をもったきっかけは、あとがきにある「勇気をもって一歩ふみだすこと、全力で挑戦すること、そして、自分とは違っている者を認め、尊重し、愛することを教えてくれる猫とカモメの物語が、



これからもたくさんの方々の心に届きますように」ということばを、偶然見かけたからです。みなさんにも、ぜひおすすめします。(M・T)

『モナミは世界を終わらせる?』
 はやみねかおる著 角川文庫 2014

「世界の重大事件と、おまえを中心にして」に学校で起こることが同調(シンクロ)している。ードジっ娘だけど普通に高校生活を送る真野萌奈美ことモナミのもとに、突然男がやってきてモナミの身辺警護をするという。どういうわけか、世界の出来事が彼女の周囲で起きることとながって、世界に行く末はモナミの行動次第に?！そして命を狙われて一人の、一つの行動が、世界に変化を生む。ウソみたいな話に巻き込まれた女子高生のドタバタ学園ミステリです。

『なりたい自分との出会い方 世界に飛び出したボクが伝えたいこと』
 岡本啓史著 岩波ジュニアスター
 トブックス 2022

ダンサー、役者、料理人、教師を経て国際協力の道に進み、40カ国以上の国で教育支援を行ってきました。と聞くと、昔から優秀で何でもできたんだらうと思ってしまうのですが、著者は「元・落ちこぼれ中学生」だったそう。何がどうなって、こういふ人生を歩くことになったのでしょうか。「人生は何があるかわからないので、

興味がある場合は何事もやってみる」というのが役に立った著者の経験談は、スケールが世界規模で「そんなことであるんだ」とビックリするし面白い。(K・K)

『君たちは今が世界(すべて)』 朝比奈あすか著 角川書店 2019

「誰か」の存在が影響をもつ小学校6年生の世界は教室。「みんなと一緒」という安心感で、自分の気持ちを隠してしまふ登場人物の心の動きは複雑です。自分の居場所を守ること、大人から見ると否定されること、なのではないか。揺れ動く不安定な世界。未来を創ることは、今を生きていること。時間がたてば自分の居場所は変わっていく、世界も広がっていく。きまます。それを実感できるように。つたとき、本当の自分の居場所が見つかるともいれませんか。

『きみのいた森で』 ピート・ハウトマン著 こだまともこ訳 評論社 2021

祖父を亡くしたスチュウイは、引越してきたエリーと友達になり森の秘密基地で遊ぶようになります。ある日エリーはスチュウイの目の前で消えていなくなり、エリーの前からスチュウイが消えてしまっています。お互いの2人だけがいない2つの世界で、それぞれの時間が過ぎっていきます。2人の生きる2つの世界

界は1つに戻れるのでしようか。祖父の過去の秘密がスチュウイたちの解決につながっていく、ファンタジーのような不思議なYAMISテリです。

(K・M)

『翻訳できない世界のことば』

エラ・フランシス・サンダース著 前田まゆみ訳 創元社 2016

一言では訳すことができない世界の単語を集めたこの本。例えば、スウェーデン語の「RESSEBER」(レースフエーベル)は「旅に出る直前、不安と期待が入り混じって、絶え間なく胸がドキドキすること」。旅行前のあの落ち着かないワクワクした気持ちに、1つの単語で表現されていることに驚きます。日本語からも「WABI-SABI」等いくつか取り上げられています。いぎ、その単語の持つ意味を説明しようとするとなかなか難しいもの。本書では、20代の著者によって分かりやすく説明されています。1つの単語から、その背景にある文化や暮らしをうかがい知ることが出来ます。ぜひお気に入りの単語を見つけて、世界には



いろいろな異なる文化があることを感じ、まだ見ぬ世界へ想像を広げてみてください。

『パリの国連で夢を食う。』 川内有緒著 イースト・プレス 2014

「よ、転職するたびに大陸を変える女！」と友人たちから、からかわれるほど行動力のある著者。大学卒業後、アメリカで6年過ごし、日本に戻った3年後には、パリの国連機関で働くことになった日々のお話です。国連では世界の問題を解決する仕事だけでなく、働く人々も世界各国から。話す言葉が異なれば、職場での服装もスーツやドレス、民族衣装など様々。ランチタイムも、何時にどこで何を食べようかと自由。まえがきにある通り、国連の仕事についてはあまり詳しく描かれていませんが、愉快な同僚たちとの国連ライフと、国連の外で出会った個性的な人たちに綴られています。日本の常識に沿った「日本のものさし」では「変わった人」でも、別の国の常識から見ると、そう感じる方が「変わった人」なのかも知れません。いろいろな価値観があることを知るの楽しいですよ。

(N・F)

『家族だから愛したんじゃない、愛したのが家族だった』 岸田奈美著 小学館文庫 2023

私の父が車いすでしか動けなくなっってはじめて、車いす移動のつらさが見えるようになりましした。この神戸出身の岸田さんのお母さんも車いすになって「死んだ方がマシだった」と言っているのを立ち聞きし、「死にたいなら死んでもいいよ、でももう少しだけ時間をちょうだい」と高校生の彼女が言う。そして「ママが生きててよかったと思える世界」にするべく、驚きの行動力を見せる……。お父さんが中学の時に亡くなり、弟さんがダウン症で生まれ、毎日がすくぶるたいへんなのに、笑わせてくれる実話。ドラマにもなりましたが、すごい人です。

『TRUE Colors』 小林深雪ほか著 講談社 2023

お茶の水女子大学は2020年、日本女子大学は2024年、津田塾大学は2025年度受験からトランスジェンダーの受験を認めました。これからどんな認められていくのでしょうか。トランスジェンダーの人もできてきます。トランスジェンダーの人にとっても恋愛はふつうに悩みのたね。最初にマンガがあっただけかたね。最初には作者の短編小説が6つ。本人たちはそれぞれの世界で向き合っていて傷つきながら生きている。進学する高校が別になっただけの幼なじみ、友達がない子、神戸への修学旅行での秘密

密、知られたくない家族の問題、成長への自覚と未来への恐れ……。分らないから、他人事だし、気にしないでいいや、じゃなくて分らないなりに少しづつでも自分から知ろうとしてくれたらうれしいな。そういうことの積み重ねが、きつと相手への優しさだと思ふから。「羽つきスキップ」より

これらの短いストーリーを読んで少しでも自分の世界を、視野を広げてくれたら、分らないなりにわかる努力をしてくれたらと思います。

(Y・M)

『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』 ブレイデイトみかこ著
新潮文庫 2021

市内のランキングでトップの小学校に通っていた優等生の「ぼく」は、元、底辺中学校に入学します。そこで人種差別や貧富の差、いじめ、多様性などの問題にぶつかります。その問題に「ぼく」と母で毎日乗り越えていくリアルストーリー。印象的なところは、住んでいる地域の差別で「ぼく」と親が傷つくシーンです。日本では宗教が強制されるのが考えにくく、人種差別が見えにくい。環境に恵まれているからこそ気づけなかったことに気づける本なのでぜひ読んでみてください。

トライやるウィーク参加者 K・A

『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー2』 ブレイデイトみかこ著
新潮社 2021

この本の舞台、イギリスでは様々な人種や宗教が違う人たちが生きています。そして日本よりも貧困や格差があり、それが社会問題にもなっているそうです。日本人とアイルランド人を両親に持つ著者の息子が元底辺中学校と呼ばれる学校で奮闘している様子を描いた作品です。いろいろな人がいるからこそ見えてくるイギリスだけじゃなく、世界中にある問題がわかります。日本で過ごしているだけじゃ見えない社会問題がこの本に書いていてとても考えさせられる作品です。

トライやるウィーク参加者 M・I

『ハリー・ポッターと賢者の石』
J・K・ローリング著 松岡佑子訳
静山社 1999

緑の目に黒い髪、額に稲妻型の傷があるハリー・ポッターは、ロンドン郊外でおばあちゃんに育てられながら生活をしていました。ハリーの十一歳の誕生日にホグワーツ魔法学校の入学許可書が届き、ハリーの人生は一変します。魔法学校で出会った友人、ロンやハーマイオニーたちとの楽しい勉強や冒険の日々を過ごす

同時に、邪悪な者との対決に挑みます。授業や学校生活がとてもしそんで世界観に引きつけられます。ファンタジーが好きな人におすすめです。

トライやるウィーク参加者 K・A

『夏への扉』 ロバート・A・ハインライン著 福島正実訳 ハヤカワ文庫 1979



最愛の恋人に裏切られ、生命の次に大事な発明までだまし取られた僕の心は12月の空の様に凍てついていたのだ！そんな僕の心を冷凍睡眠保険がとらえたのだ……。1979年から2009年にタイムスリップした僕を主人公です。人の手を煩わせずに掃除するロボット(今でいうルンバ)、紙に触れただけで自動的にめくられる新聞紙など、近未来の描写がとてもしっかりと描かれています。伏線がいっぱいあって回収

した時はとても気持ちが悪くスカッとします。ぜひ読んでみてください！
トライやるウィーク参加者 M・I

中高生どちらも

『世界史を変えた植物』 稲垣 栄洋著 PH.D
文庫 2021

世界の歴史は人々によってつくられてきた。しかし、その人々を動かしてきたのは植物である。つまり「植物が世界の歴史を動かしてきた」と著者は言います。まさか大げさな、と思っただけで読み始めると、どんどん引き込まれて、なるほど！と感心するばかり。世界の文明、文化、戦争、革命、経済、それらの背景にあった15種類の植物について書かれています。皆さん、お馴染みのものばかりですよ！



『怖くて眠れなくなる植物学』 稲垣栄洋著 PH.D 文庫 2022

生物として面白いのは、動物が植物か？と訊かれたら「そりゃ動物の方が可愛い」と面白いです。是非、この本で植物の世界のぞいてみてください。堅苦しい専門的な話などはほとんどなく、植物のちよつと怖い特性を人との関わりを通して書かれています。とても分かりやすい。「ライオンゴロシ(ライオン殺し)」なんてのも登場します。読み終わったら後は「動物も植物も両方面面白い！」と思うはずですよ。(N・N)

『13歳からの反社会学』

パオロ・マッツァリーノ著 角川文庫 2013

統計などを通じて世界をどう見ますか？どう読み解くか？例えば卵：日本の自給率は100パーセントと言われます。しかしヒヨコは90%が輸入。餌(えさ)に至っては100パーセント輸入。考えようによれば自給率0%とも言えます。統計の読み方、統計の目となるデータの考え方次第で、世界の見方はひっくり返ることもある。作者はこのデータには2種類のバカがいる。一つは「このデータを見よう」としないうバカ。もう一つは「データしか見ないバカ」と言い切ります。そう、データしか見ないのもバカなのです。世界はいろんなデ

ータに満ち溢れている。そのデータをどう見るかを、私たちはあまり深く考えません。統計の数字やグラフをみたら、すぐに「ああ、そうなんだ」とすなおに納得してませんか？世界を正しく見るには正しくデータを見なければなりません。この本は、「へー、データをみるとき、そんなことを考えないとダメなのか」と、目から鱗が落ちる思いをすること請け合い。誰か(AI)かもしれない)がもっともらしい数字を持ちだしてきても、よく考えてかからないと。(図書館にあります)(A・N)

『おかえり』と言える、その日まで 山岳遭難搜索の現場から』

中村富士美著 新潮社 2023

ふだん身近にあり、遠足で登るような山でも遭難することは少なくないそうです。搜索活動は行われず、ある程度の期間で打ち切られてしまいます。著者は、その後、搜索活動だけでなくご家族のサポートも行う民間チームがあることもはじめて知りました。とても丁寧に搜索し、ご家族に寄り添われる様子に感心しました。著者からのアドバイスで印象に残ったのは、山で遭難したら、どうしても下る選択をしがちだが、下るのではなく、とにかく上に登ってほしい。(H・K)

『愛するよりも愛されたい』 令和言
葉 奈良弁で訳した万葉集1』

佐々木良著 万葉社 2022

学校の授業で「万葉集」を習ったときは、当然ですが古語で習いました。でも苦手な浪花に託しては「なんのこっちゃ?」ってというのが正直なところ。その内容の一部が私たちのなじみ深い関西弁で書かれており、その当時のことを現代風に書いてあり興味のない私でもすんなり読めました。「当時の世界を今に置き換えたらこんなんやったんかあ」みたいに感じられる一冊です。結構話題になったので読んだことある人も多いかも。

『心を熱くするスラムダンクの言葉』

斎藤孝監修 きずな出版 2023

超人氣アニメの「スラムダンク」が昨年の冬に映画化されました。学生時代浪花も何度も読み返したマンガの1つです。この本に出てくる言葉は確かにアニメでのいろんな場面を思い出させてくれ、また熱くなりました。みなさんもスラムダンクを讀んだり、見た後にこれを讀むとより一層この本で書かれていたことを掘り下げることができると思います。もし、読んでいなくてもこのスラムダンクの世界に触れることによってもこれまでない気づきが生まれるかもしれません。比較的読みやすい構成

成になつているので一度手に取ってみては? (K・N)

『黄金の羅針盤』 フイリップ・プルマン著 大久保寛訳 新潮文庫 2021

人間の魂が使い魔という形で体外に存在する世界。12歳の孤児の少女が叔父とともに名門大学で暮らす友人が誘拐されたとき、彼女は彼を見つげるために世界中を旅し、別の次元への扉を開ける。勇気と忠誠心についての物語です。世界は主人公のライラが想像していたよりも広いにもかかわらず、彼女は決して諦めない。(B・H)

『スカートはかなきゃダメですか?』 ジャージで学校』 名取寛人著 理論社 2017

NYを拠点に世界各国で公演している男性だけのバレエ団、トロカデロ・デュ・モンテカルロバレエ団。初の日本人ダンサー、名取寛人は、実は生まれた時は女だったことを告白。スカートが嫌でジャージで通っていた中学、高校時代から、男性ダンサー



として活躍し、手術を受けて戸籍を男性に変えたことが綴られている。女子はスカート、男子はズボンという固定観念を拭い去るとどんな世界が見えてくるかな。(A・K)

『光秀の定理』 垣根涼介著 角川文庫 2016

本能寺の変で、織田信長を討つた明智光秀。そんな光秀を主君に反旗を翻した謀反人や信長の所業を戒めるための戦いなど様々な諸説があります。そんな謎に包まれた歴史の世界をそれぞれの見方で読み解いてほしいと思います。(H・K)

『世界のお弁当』 心をつなぐ味レシピ55』

服部直美著

情報センター出版局 2008

世界各国には、その国の風土や暮らしならではのお弁当文化があります。伝統と、時代の流れが合わさって生まれるお弁当メニューはその国の食文化を映し出す鏡といえるかも知れません。この本では、世界22エリアのお弁当の定番メニュー&レシピを紹介しています。食べてみたいメニューがあれば、レシピを見ないでしようか。

『きせつのしつらいえほん』

羽田えりな著 中川政七商店 2023

日本には季節に合わせたかぎるもの、食べるもの、行うことがあります。それらには全て「しつらい」と呼ばれます。この本では「しつらい」と呼ばれる季節のおかざりを中心に、楽しい「いわれ」が紹介されています。例えば、「おひなさま」にはどんな人形や道具をならべるか、「七夕かざり」には願いごとを書く「たんざく」だけでなく「ふきながし」や「あみかざり」などがある。「こいのぼり」は「流れの激しい滝を登り切った鯉は、立派な竜になる」という登竜門伝説に基づいているなど。世界の中で日本を考える時に、日本独自の文化に触れてみるのはいかがでしょうか。(N・O)

『The Hunger Games』上下巻 by Suzanne Collins

メデイアブアクトリー文庫 2012

Katniss Everdeen, a girl with various skills and knowledge of the woods, must face the ultimate test of survival in the annual Hunger Games televised event. This event forces citizens of two districts to fight each other to the death. For those interested in a thrilling story with twists and turns when you least expect it, this novel is for you! Get to know Everdeen's backstory and what

Leads the characters to the Hunger Games. Enjoy the ride! (S・U)

『四畳半神話大系』 森見登美彦著 角川文庫 2008

「もしあの時、あちらを選んでいれば今頃は…」、「〇年生に戻ってやり直したい」と考えたことはありませんか。小さな選択であっても基本的には選び直したりやり直したりすることはできないものです。もし、「AではなくBという選択をした世界」が別次元で存在するとしたら、自分や自分を取り巻く環境はどのように変化するか、何も変わらないのか。そのような、マルチバース、あるいはパラレルワールドの妄想が展開されるお話です。登場人物はなかなか癖のある人物が多く、特にこの本で主人公が身を投じるどの世界線にも登場する小津という男は「妖怪ぬらりひょん」「月の裏側の住人」「夜道ですれ違えば10人中8人が妖怪だという(以下省略)」などひどい言われようです。また、明石さんという魅力的な女性との関係にも目が離せません。もりみーこと森見登美彦節全開の物語ですが、その「もりみーワールド」に染まりたい人、パラレルワールドが好きな人はぜひ読んでみてください。この物語の最終章で暗に示される作者からの

重要なメッセージに気づいた人はぜひ私、紙本まで。この本を読んだ全ての人たちからのレポお待ちしています。(M・K)

『きんごじならステイど』

加藤シゲアキ著 朝日文庫 2022

作者の旅にまつわるエッセイ集です。キューバやスリランカなど実際に旅に出ている話から自分の内側について考える話まで。実際に世界に「外」に出ることだけが旅ではなく、自分の「内」にあるものを探るものを探るんだなという改められた本です。個人的におすすめるのは「時空」と「スリランカ」と「無心」。



ちなみに学校に通うことの意味を一つ提示してくれているエッセイもあります。(M・I)

『精霊の守り人』 上橋菜穂子著
新潮文庫 2007

「世界」と聞いた瞬間にでてきたのが、上橋菜穂子の守り人シリーズ。ファンタジーが好きなら、はまる事、間違いない。そして内容だけにとどまらず、その世界観を見て欲しい。ここまでこの壮大な世界を作者は、いかに作り上げたのか、上橋さん自身も気になるところ。調べると、なんと上橋さんは文化人類学者！文化人類学とは、世界のさまざまな民族の文化について調査して、人とはどのようなものかを考える学問。そんな深い知識がある方が作り上げる作品！是非、文字から浮かぶ想像の世界を楽しんで欲しい。

(H・S)

『行け広野へ』 服部真里子著 本阿弥書店 2014

短歌を読んだことはありませんか。国語の授業で学んだことがあるとか、百人一首なら暗唱できるとかいう人は多いと思います。紹介しているこの本は、作者が十九歳から二十七歳になるまでに作った短歌をまとめて一冊にしたものです。おだやかで、けれど鮮やかな言葉で詠まれる一首一首に、この世界のさまざまな表情が浮かび上がります。私たちの生きる世界は、うつくしく、おもしろく、さびしく、あたたかく……、三十一音の

作品として切り取られた世界を、楽しんでみてはいかがですか。二首引用します。「春だねと言えば名前を呼ばれたと思った犬が近寄ってくる」「当たらない星占いがきらきらと折りたたまれて新聞受けに」

(Y・M)

『鳥類学者だからって、鳥が好きだと思ふなよ』 川上和人著 新潮文庫 2020

その道の専門家と言われる人たちの住んでいる世界を知っているだろうか。

筆者は鳥類学者。鳥類学といえ、生物分野。生物分野は理系。だから白衣を着て、試験管をもって、ずっと研究棟とか実験室でなんだから難しいことをしているに違いない……。まあ、たぶんタイトルからしてそんな感じではない。とにかく面白いエッセイである。そして、予想を超えたアウトドアっぷりが突き抜けていて、「さすが、その道を究めた人」という印象である。本文にはちよっとおじさん言葉が多く、好き嫌いは分かれるところかも知れない。気になった人は目次だけでも読んでみると良い。「ははっ」と思えたら、絶対に本文も楽しく読める。

タイトルに反して、鳥は好きみたいですよ、筆者。(T・M)

『月刊科学雑誌 NEWTON 2022年12月号「感動する数学」』

数学の世界は、難しく複雑に思えても、シンプルな式で表すことができた、直感とは反する結論になっていたりする。そのような世界を目の当たりにすると、驚き、感動し、美しいとまで思える。その驚くべき、感動するような、そして美しい数学の世界の魅力を堪能してほしい。(T・H)

『成瀬は天下を取りに行く』 宮島未奈著 新潮社 2023

行動力抜群な女の子の物語です。成瀬の世界を満喫してください。何気ない日々の愛おしさに気づかせてくれます。是非、読んでみてください。

(M・K)

『博士の愛した数式』 小川洋子著 新潮文庫 2005

「数学は世界共通言語」という言葉を聞いたことがありますか？今年舞台化もされているので、知っている人もいるかも知れませんが、この本は80分しか記憶が持たない数学者の物語です。家政婦さんとの出会いから始まりますが、記憶が持たない博士にとって家政婦さんの言葉になり、数字が博士の言葉になります。数学用語がたくさん出てきますが、なぜ数学が世界共通言語と言われるのかまで考えてみても面白いと思います。(H・H)

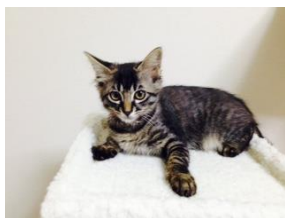
『好きと得意で夢をかなえる——大谷翔平から学ぶ成功メソッド』

児玉光雄著 河出書房新社 2021

大谷翔平は、なぜあれほど世界で活躍できるのか、その答えには「仕事力」を高めるヒントが満載。その思考・行動パターンから、生徒の皆さんも何かの参考になるかもかもしれません。(F・T)

『ヘンな論文』サンキュータツオ著 角川文庫 2017

毎年イグノーベル賞が発表されるたびに、「よくそんな研究をしている人を見つけてきたね」と思うのだが、この本を読んで、「あ、そういうところですか」と見つけ先を納得してしまいました。世界におこるすべての事象に興味を持ち、日々真剣に、科学的に研究を続ける研究者に尊敬の念が沸き起こってきます。少しむづかしい話を一部口語体でポップに紹介してくれて、研究の在り方などこの本で少しわかったりします。「元近鉄ファン」の研究なんて、ほっこりします。(おじさん・おば)



さん世代でないとは分らないかも。。「猫カフェの効果」とか、「カッパルの観察」とか、最高にあほらしくて、だからこそ、そこに学問の本質を感じたりするのです。「役に立つ」ものなんて、底は知れているのです！役に立たない素晴らしさ!!世界は知的興味と知的興奮にあふれています!

『アーサー王と円卓の騎士』シドニア・ラニア編 石井正之助訳 福音館書店 1980

せっかくなので、アーサー王モノを1冊紹介しよう!と図書館に行くと、見つけてしまいました。私が皆さんと同じ年の頃に図書館から借りて読んだ本があるではないですか!いろいろな意味で少しレトロな感じですが、そこがまた「よい雰囲気」として、物語に引き込まれていきます。アーサー王伝説のメジャーどころをサラッといい感じに押さえてくれていきますので、おすすめの1冊です。6月の団体鑑賞で「すごく楽しかった!」と興味を持った人も、「意味わからん」と思った人も、どちらも、だからこそ読んでほしい1冊です。

『13歳からの地政学』田中孝幸著

東洋経済新報社 2022
最近はやりの地政学の話を一冊くらい紹介しよう!と探し始め、ジャケ買いしました。かわい表紙と、会

話文で進み、むづかしい話も柔らかく噛み砕いてくれています。13歳からとあるので、中学生もこれくらい文章・分量は読めなくては困るよ、という気持ちで中学生にも勧めます。世界で起きている様々なことを、地理学的な要素を踏まえて考察していくのですが、これがわかれば池○さんもいらなくなるし、学校の社会なんて楽勝だぜ☆(ちよつと調子にのりました。局所的な案件とか、いろいろフォロしきれない部分もある)でも、そこはがんばってください。でも、理解はしやすくなると思います!この本に限らず、自分に合いそうな地政学の本を1冊2冊は高校卒業までに読んでおくといいですよ!! (S・M)

『社会人のための英語の世界ハンドブック』酒井志延、朝尾幸次郎、小林めぐみ編 大修館書店 2017

前半は、「英語圏の国々(イギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、アイルランド)」や「英米の生活」「文化」について、後半は「そもそも英語がどのように生まれたのか」「和製英語」「パラグラーフとエッセイ・ライティング」など【言葉としての英語】について、とにかく【英語】にまつわる情報がたくさん詰まっています。社会人のためのとタイトルにはありますが、中・高生

の皆さんでも十分楽しめる内容です。内容ごとにページが分かれているので、興味のある箇所だけピンポイントで読むこともできます。授業でよく扱われる「単語」「文法」「長文読解」などはまた違った観点から、「英語の世界」をのぞいてみませんか？
(A・K)

『100万回生きたきみ』七月隆文著
角川文庫 2021

本屋でこの本を見つけた時、佐野洋子さんの『100万回生きたねこ』をもちろん思い出しました。本当に好きな絵本なので、子供に読み聞かせはできません。泣いてしまうので。

それはさておき、やはり気になるので手に取ると、読みやすく美しい情景が浮かぶような文章にあつという間に引き込まれました。「きみ」はその登場人物であり、こちらの登場人物でもあるだろうな、と違った視線で楽しむことのできる物語です。そして読後にまず感じたことは、「私は今日という日を、初めて生きるな。」という新しい感覚でした。毎日同じように見えて違う一日を、大切に生きたいと思えます。

『今日のハチミツ、あしたの私』寺地はるな著 ハルキ文庫 2019
じわじわと、静かに、けれども大きく、寄せてくる波”のような爽快感、

と言いますか。登場人物の全員が前向きに変わっていく、縮こまっていた世界が少しずつ広がっていく、そんな成長物語です。

主人公の友人が、「あんたらがそうやって『傷つきやすいから』とか『弱いから』とか言って甘やかすから、あの男はいつまでたっても弱いまんなの！誰だっけ？傷つくし、誰だっけ？弱い！けど誰でもみんな現実に向き合ってる生きてんの！（…略…）現実の世界はきれいじゃないことを安西は知るべきなの！」と息巻く場面がある。私が思っていた言葉とは違っていたけれど、何ともスツキリと、やっとなんか言いたい事を伝える、いわゆる「ここぞの場面」にとても感動しました。「毎日少しずつ」の人の関りが、その人を支える大切なつながりへと変化していくさまも見てとれる、素敵なお話でした。
(S・M)

『愛するよりも愛されたい』令和言葉・奈良弁で訳した万葉集1』佐々木良著 万葉社 2022

『万葉集』というと、歴史や古典の授業で習った、なんだか難しそうなお歌集というイメージがあるかもしれませんが、この本は、国内最古の和歌集である『万葉集』を若い人に気軽に触れてもらえるようにと書かれたもので、令和言葉・奈良弁で訳されており、笑いながら、時にはせつない気持ち

とともに、「万葉集の世界」にいきなつてくれます。

SNS的な感性をふんだんに使った言葉遣いで、『万葉集』の和歌を現代語訳してくれているので、とても読みやすく、共感できる和歌がたくさんあります。令和言葉や奈良弁で訳すことで、「なるほど〜！」の文面みたい！と身近に感じたり、クスッと笑いながら気楽に読める本です。皆さんもぜひ、この本を読んで、約1300年前の歌人たちの気持ちを共感しながら、万葉集の世界に浸ってみませんか？
(Y・K)

『水の日本地図』村上道夫 ほか著
朝日新聞出版 2012

私たちは、蛇口をひねれば当たり前前に水が使えて、飲むこともできます。でも、世界の多くはそうではありません。日本は水に恵まれた国である一方で、問題もありません。

そしてこれから夏を迎えますが、熱中症や水難事故、水害などに注意が必要となります。中学3年生は1学期の保健の授業で学習した内容も含まれています。



私たちの生活になくてはならない「水」について、考えてみませんか？さらに興味がある人は、以下も読んでみてください。どちらも図書館にあります。

『水問題の重要性に気づいていない日本人』 橋本淳司著 P H P 研究所 2007 (A・B)

『パラダイス 始めて文明を見た南海の酋長ツイアビの演説集』エーリッヒ・シヨイルマン著 岡崎照男訳 SB 文庫 2009

この本は、ヨーロッパを訪問したサモアの酋長ツイアビの演説集となつていますが、実際は作者シヨイルマンの手によるフィクションです。とは言えツイアビ(シヨイルマン)の目からみた文明批判はとても面白く、読み終わつた後、私たちが先進文明というものを、明かされる、大切なものを見失つてしまつて、捨ててしまつて、どこかに気づかれない、高度情報化



社会が当たり前のこの世の中で、懐古主義ではありませんが、今まで人間が培ってきた事にも目を向ける必要を感じ取つてほしいものです。

『四月になれば彼女は』 川村元気著 文春文庫 2019

川村元気は、『世界から猫が消えたなら』とか『億男』などの著作や「君の名は」などの企画・プロデュースなど手がけ、肩書きは、映画プロデューサー、小説家、脚本家、映画監督、絵本作家と多岐にわたります。そんな彼が、男女の恋愛をテーマに独自の世界観を展開するのが本作品です。恋をしている者にとって、共感とほろ苦さを感じさせる内容で、青春真っ只中の皆さんにとつてうつつけだと思えます。(S・T)

『世界でいちばん幸せな国のフィジーの世界で一番非常識な幸福論』 永崎裕麻著 いろは出版 2015

フィジーは世界で一番幸せな国だそう。決して物質的な豊かさではない、人間の温かさを感じることができると本です。フィジーに住みたいなど思わせてくれる本です。(M・S)

『なでし子物語』 伊吹有喜著 ポプラ文庫 2014

林業で財を成した旧家・常夏荘。その跡取りで、でもどこにも居場所がない少年立海。父を亡くし母に捨てられた立海。学校でいじめにあつて居る。この小さく閉ざされた世界の中で少しづつ自分らしさを見つけていく立海。『天の花』『なでし子物語』、『地の星』『なでし子物語』という続編もあります。(M・T)

世界というくくりとは少しはずれています。でも言葉の世界。音楽の世界というところでご容赦を。

『本日、お日柄もよく』 原田マハ著 徳間文庫 2013

二十四時間後の君、涙は乾いている。二日後の君、顔を上げています。三日後の君、歩き出している。この本の中に書かれている私が大好きな言葉です。ハンカチを用意してどうぞお読みください。

『永遠をさがしに』 原田マハ著 河出文庫 2016

音楽のお話、この本の中に出てくる音楽を聴きながらぜひお読みください。これもやはりハンカチをご用意ください。(H・S)

「言葉」を通して僕たちは「コミュニケーション」をとっています。なのに、最近はその「言葉」を大事にしない世界になってきているように思えます。そんな世界とは一線を画して、本の世界があります。

本を読んだ人だけが、本の楽しさを知ります。何冊か、気になった本を挙げます。どれも僕には「刺さりました」。手に取って数ページ読んで、気に入れば最後までお読みください。本の世界、言葉の世界は深遠で、素晴らしいです。それはあなたが感じ取るものです。

中学生向け
 ・きみを変える 50 の名言 3 期 汐
 文社 2023

・戦争をやめた人たち 1914 年のクリスマス休戦 鈴木まもる文・絵
 あすなろ書房 2022

高校生向け
 ・犬が来る病院 大塚敦子著 角川文庫 2019

・フレイクニュースがあふれる世界に生きる君たちへ 森達也著 ミツイパブリッシング 2019

・徒然草 (口語訳で可) 吉田兼好 (K・Y)

『深夜特急』※全 6 巻 沢木耕太郎著
 新潮文庫 2020

筆者自身の旅行体験を基につづられた紀行小説です。起点をインドのデリー、終点を英国のロンドンとだけ決め、後は出たとこ勝負な感じで進んでいく長距離バスでの一人旅がどのようなものになるのか。全 6 巻の長編小説ですが、様々な国々を主人公の「私」と一緒に旅しているような感覚に陥り、一気に読み進めた記憶があります。この小説を読んだ当時、僕は大学 2 回生くらいだったと記憶していますが、この本の内容が大いに影響、感銘を受け、その後、バックパックを背負ってタイや英国へ貧乏旅行に出かけたことは、今の自身の経験値となっていて気がします。
 (R・B)

『翼をください』上下 原田マハ著
 角川文庫 2015

第 2 次世界大戦前、世界一周飛行を成し遂げた 8 人のお話です。小説なのでフィクションではありますが、実在する人物(ある有名な物理学者なども登場し、楽しめます。新聞記者の翔子が「ニッポン号」の乗組員の写真を調べ、謎の人物が写っていたことから、物語が展開していきます。ドキドキしながら読みすすめられると思います。
 (K・S)

『世界のニュースを日本人は何も知らない』谷本真由美著 ワニブックス PICS 新書、2019

日本国内の報道だけを見ていると、どうしても入ってくる情報やその解釈に偏りがでてくる。ネットにつなげば世界中の情報を自分からとれる今、自分の意思で「世界」のことをもっと知ることができると。海外の報道が常に正しい、というわけではないが、入ってくる情報が変われば、「世界」の見え方も、それに対する考え方も大きく変わってくる。この本をそのきっかけにして欲しい。

『佐久間宣行のずるい仕事術』佐久間宣行著 ダイヤモンド社 2022

著者は、最近自らもT.VやYouTubeにもよく出演している元テレビ東京のプロデューサー。ややこしい人間関係を乗り越えて、組織の中でどうやって自分のやりたいことを実現するか、世界中の多くの人が直面している悩みを解決するヒントが見つかるかもしれない。周りのせいにしてたり、世の中のせいにしてたり、自分の考え方や行動を変えてみよう。自分が変わると、「世界」が変わったように感じるもの。大人にも中高生にもぜひ読んでほしい本。

『核がなくならない7つの理由』 春原剛著 新潮新書 2010

「もし、ウクライナが核兵器を手放さなかったならば、2022年2月に始まったロシアによる侵攻はなかったはず」と指摘する専門家もいる。本場にそのようなかどうかはわからないが、核保有国は核を放棄せず、日本のように核兵器を持たなくても「核の傘」に入っている国はその状態を維持している。このことは、国際政治において核兵器が持っている影響力が今もなお大きいことを示している。この本は、オバマ米大統領による「核なき世界」構想演説の後、2010年に書かれた本だが、現在の国際政治を理解する上でも非常に参考になる本である。

『戦争学』概論』 黒野耐著 講談社 現代新書 2005

欧米では大戦略の基礎として定着している「地政学」の概要の紹介、そして、「政治」「戦争」「軍事」の関係、戦争が時代の共にどのように変化してきたのかについて考察した本。この本が書かれてからすでに約20年が経過しており、



今、起きている戦争においては、宇宙・サイバー分野の影響力の拡大、ロボット兵器の投入など、その様相はさらに大きく変化しているが、戦争の本質的な部分に関する理解においては、今も有益な本である。(T・S)

十二国記シリーズ 小野不由美著

新潮文庫など 2012

昨年夏、『十二国記』30周年記念ガイドブックが出版しました。山田章博さんのイラストはいつものとおり美しく、帯や目次には、「幻の短編『漂船』掲載」だとか、萩尾望都さん、芥見下々さん、羽海野チカさん、沖方丁さん、畠中恵さん、辻村深月さん、阿部智里さんといったそうそうたる漫画家さん、作家さんの名前!...というわけで、ガイドブック、購入しました。日本の誇るハイファンタジー『十二国記』そのファンの方々とは好きな気持ちを確認し合いながらの読書、とても楽しかったです!...で、シリーズの紹介です。私たちの生きる世界とパラレルに存在しているという十二国。この東洋風の異世界のなんというリアル!ぜひ、体験してください!既刊15冊、私は「魔性の子」から入ることをおススメします。国産モダンホラーの秀作という評価を得た本です。が、これは実はホラーではなく、十二国と私たちの世界がつながってちやつたから起こってしまった

た悲劇?の物語、壮大な十二国記の第0巻、興味深い導入の物語なのでした。(そう言えば、鈴木光司さんの『リング』もとっても怖かったけれど、『らせん』『ループ』と読み進めるうちに、サスペンス?近未来SF?...にああ、そういう世界のお話だったのか!と合点がいつてスッキリしたなあ。)

『これで古典がよくわかる』 橋本治著 ちくま文庫 2001

筆者は第1章で、「外国に行って外国の人とよくつきあう日本人があまり日本のことを知らないから、外国の人が日本のことをわからないというのではないか」というようなことをおっしゃっています。まさに、我が意を得たり!皆さんの生きる場は、これから間違いなくどんどん国際的になっていくことでしょう。皆さん、国際社会の中でオリジナリテイ(=自分が本来持っているはずの独自性)を発揮し、「日本人はわからない」「顔が見えない」ではなく、「日本っておもしろいね」と言われたくありませんか?私たちの足もとにある日本の歴史や文化を大切にしましょう。もつと古典をおもしろがりますよう。おもしろいんですから!この本はその入り口として最適です。橋本治先生、大好きです。『桃尻語訳』枕草子も『絵本 徒然草』もおもしろいです!(M・U)

高校生向け

『2050年の地球を予測する 科学でわかる環境の未来』伊勢武史著 ちくまプリマー新書 2022
 パンダとペンギンが絶滅したら、僕にとつての地球は、楽しい星としての価値は大きく減少してしまうことだろう。(文中より)

自然界に生きる、名前もないパンダやペンギンの暮らしは、巡り巡って私たちの日常と繋がっている。新潟水俣病、四日市ぜんそく、水俣病、イタイイタイ病は、教科書にも載っている。90年代の公害訴訟だが、限られた地域での特定企業がその環境汚染による原因だ。半世紀を経て、温暖化も酸性雨も海洋プラスチックごみのこともすべてグローバルだ。Blue Earth Project に関わる皆さんには、すでに「自分ごと」として語る資格がある。



つまでも青く美しく、そして楽しい地球であってほしいものだ。(N・A)

『同志少女よ、敵を撃て』逢坂冬馬著 早川書房 2021

読書のいいところは、普通に生活していれば絶対に出会うことのない人、自分と全く違う境遇の人、およそ想像もつかない状況など、早い話が、全く違う『世界』を経験できることではないでしょうか。この本はソ連の女性スパイパー(狙撃手)のお話。普通に生活していれば誰かを憎み、武器を手に入れ、誰かを殺傷する…なんて考えられませんが。しかし、主人公の少女・セラフィマを通して、なぜ彼女がスパイパーになったのか、どのようにして敵を撃ち殺していくのか、まるで映画を見るように語られていきます。またこの物語自体はフィクションですが、実際に行われた戦争や、その戦争の中で実在した軍人や政治家、作家などがモデルです。半分は実話小説と言ってもいいと思います。そしてこのお話が、現在のロシアとウクライナとの問題と全く無縁でもないことがわかります。歴史のお話は置いておくとしても、実際に18歳の少女が、なぜ戦うのか、誰を敵として戦うのかを考えながら、ハラハラしながら読めます。(2022年の「本屋大賞」受賞作 図書館にあります。)(A・N)

『抵抗都市』佐々木讓著 集英社文庫 2022

日露戦争に負けてロシアに統治された日本を舞台に、国を揺るがす大事件を追う警察官の物語。歴史改編小説はあくまでもフィクションですが、もう一つの世界を見せつけてくれます。敗戦後ロシア文化を受容した東京の町並みの描写は想像力をかき立てられます。物語の筋はもちろんですが、細部も凝っていてなかなか読み応えのある作品です。

『ザリガニの鳴くところ』テイリアオーエンズ著 友廣純訳 早川書房 2020

昨年(2022年)に読んだ本の中では一押しの本です。アメリカ東部の湿地が舞台のミステリー小説。もちろんミステリーとしても最後まで楽しめますが、この本の最大の魅力は自然の描写の上手さです。湿地の風景が、音まで含めて、まるで目の前に広がっているかのような感覚になるほどです。作者が動物学者だということはもちろんですが、訳者の言葉選びも秀逸だと思うのです。翻訳本の印象は訳者の力量に大きく左右されます。そういう意味で、この本が2021年の本屋大賞の翻訳小説部門で第1位になったのは納得です。皆さんも、翻訳本を通して世界の名著に出会ってみませんか。

『雨夜の星をながして——美しい日本の四季とこころの辞典』 古性のち著
玄光社 2022

最初にこの本を手にとったとき、副題に「辞典」とあるので俳句の季語を集めた単なる歳時記なのかなと思いましたが、でも、そうではありません。写真の美しさを奪われず、写真集かと思っただけです。四季折々の写真の世界観が日本語の魅力を見事に引き出し、静かな感動と心の浄化を体験しました。調べてみると、著者の古性のちさんは SNS で話題の写真家でありライターだということ。写真とともに、日本語の美しさを感じてもらいたいです。



Molvania: A Land Untouched
by Modern Dentistry
Santo Cilauro, Tom Gleisner
& Rob Stitch 著

Hardie Grant Books 2004
新型コロナが収束して海外旅行も復活しましたが、皆さんは海外旅行に行くときにガイドブックは持っていきますか。この本は、オーストラリア出身のコメディアン 3 人組による旅行ガイドブックのパロディです。

長らく鎖国していて国際社会から隔絶されていた架空の東欧の国「モルバニア」が舞台となっています。まず本物そっくりの完成度の高い旅行ガイドブックの体裁を成していることに感心します。コメディアンが書いただけあって、いろんな記事がウイットに富んでいて、とにかく笑えます。英語の得意な人はぜひどうぞ。
(K・Y)

『ぼくはイエローでホワイトでちっとブルー』 ブレイディみかこ著
新潮文庫 2021

カトリック小学校という中流階級以上の家庭の子どもたちが集まる場所では見聞きしなかったことを経験し、まったく新しい生活を楽しみながらも、色々なことを考え、成長していく物語です。普段本を読まない私でも面白いと思える内容で難しかったです。ぜひご覧ください。
(K・H)

『世界の宗教地図 わかる！読み方』
ライフサイエンス企画編集
知的生き方文庫 三笠書房 2023

とにかく面白い！この一言です。毎日ニュースで何気なく耳にしていたことも、「なるほど、そういうことだったのか！」と様々なことが腑に落ちていきます。一つの事柄は、1 から 3 ページ以内でまとめられ、それぞれ

れ独立しているために興味のある箇所から読み進めることができ、気楽に一気に読めてしまいます。世界を知りたい人にとつて、まさに「痒いところに手が届く」一冊です。
(Y・K)

『Around the World in Eighty Days』 ジュール ヴェルヌ著
ラダーシリーズ Level 3 2008

今ではすぐに目的地に着くことができますが、昔は時間をかけて旅をしました。主人公は賭けに勝つことができるのでしょいか。
(M・S)

『たゆたえども沈まず』 原田マハ著
幻冬舎文庫 2020

私は原田マハさんの小説がとてもし好きです。原田マハさんの小説には様々なジャンルがありますが、キュレーターの仕事も持つ小説家という点で、特にアート小説には、美術への興味関心が増すことになり、とても感銘を受けました。読後、ストーリーに出てきた画家の絵を鑑賞する際には、新たな視点が加わりとても楽しみになっています。ご紹介する「たゆたえども沈まず」はフィンセント・ファン・ゴッホの壮絶な人生の物語です。フィンセントの弟テオに息子(フィンセントと同じ名前)が生まれたときにお祝いとして描かれた

「花咲くアーモンドの木の枝」、実物を鑑賞したことはないのですが、この物語を読んだからは、なお一層繊細さと優しさを感じられるようになりました。また、タイトルの「たゆたえども沈まず」という言葉もとても好きです。原田マハさんのアートの小説の世界に、フインセント・ファン・ゴッホの絵画の世界にご案内できる本だと思えます。(Y・Y)

『誰も知らない世界のことわざ』

エラ・フランシス・サンダース著

前田まゆみ訳 創元社 2019

この本には、世界中のことわざや言い回しが51収められています。例えば、ラトビア語には「小さなアヒルを吹き出す」という表現がありますが、これは「くだらないことをペラペラと話している」もしくは「嘘をついている」という意味だそう

うです。フランス語には「ザウクラウト（酢漬けたキャベツ）の中で自転車をこぐ」という表現があります。これが、これ



は「途方に暮れた」とか「考えが支離滅裂になった」という意味だそうです。みなさんもぜひ想像力を働かせて、この本にあるさまざまな言語のことわざや言い回しにふれてみてください。(N・O)

『ヤよなら妖精』 米澤穂信著

創元社(創元推理文庫) 2006

東京

前にも紹介したことがある本ですが、今年一度おすすめます。高校三年生の主人公は、ある日ユーゴスラビアからきた少女マーマヤと出会います。好奇心旺盛なマーマヤと親交を深めながら日常の小さな謎を解いていく日々は、青春の楽しさに満ちています。しかし、この小説最大の謎、「マーマヤはユーゴスラビアのどの地方に帰郷したのか」に触れるとき、物語の世界はにわかには信じられません。戦争の続くユーゴスラビアに思いを馳せる主人公たちは、どんな結末にたどり着くのでしょうか。未来への希望や不安に揺れ、自分たちの知らなかった広い世界の目を向けることになった高校三年生の心情の描写と、綿密に構成された推理パートとのバランスは見事です。私も高校生のころに読み、大きく影響を受けた作品です。(Y・M)

『大きな鳥にやっつけられないように』

川上弘美著 講談社文庫 2019

今日は湯浴みにゆきましよう、と行きさんが言ったので、みんなでしたくをした。

とてもやわらかな、物語のはじまり。しかし、少しずつ気掛かりな表現がまじりはじめます。“鼠由来の人間” “何人ものわたし”。各短編が頭の中で結びつき、次第に明らかになる快感と同時に、そこに確かにある終末的気配が濃密に漂ってきます。あまりにも大きく、あまりにも永い時間の中で、私たちの存在は一体何なのかを、やさしい物語の断片が示してくれます。「世界の終わり」とその先を描いた、川上弘美のSF挿話集。

『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』 上下 村上春樹著 新潮文庫 2010

「街」は高い「壁」で囲まれ、世界はどこまでも静寂に包まれている。「門番」によって「影」と切り離された「僕」は、古い図書館の中で、一角獣の頭骨から古い夢を読み取っている。まるで高熱に浮かされたように、濃い霧がかかった記憶。「やれやれ」だ。一方、「組織」に追われる「私」の仕事は有能な計算士。「博士」とその「美しい娘」と「やみくろ」たち。わりに静寂の世界が交互に描き出される

深層の物語。村上春樹ワンダーランドによろこそ。(H・M)

『経済は地理から学べ!』 宮路秀作 著

ダイヤモンド社 2017

地理の教科研修に行ったときの講演者の方の著書です。地理は山地や川、気候などを学ぶだけでなく、その土地の人々の暮らしについても学ぶ科目です。そして、その土(国)の地形や気候などが、実は、その地の工業の発展や交通、通信、貿易:など、さまざまな経済の分野とも密接に関わっています。この本のタイトル通り、その地の地理を理解することで、その地の経済(人々の生活)がより理解しやすくなります。地理だけでなく、経済(公民)の分野にも関心がある人ぜひ一度読んでみてください。(T・A)

『ゲームさんぼ 専門家と歩くゲームの世界』いいだ、なむ編著 白夜書房 2022

みなさんはキャラクターを操作して歩き回るタイプのゲームをあまりしていないかもしれません。そういったゲームの中の世界は建物や風景や人はもちろん、その世界の文化や雰囲気なども、「作られた」世界です。現実と似せていたり、全然違ったり。でもそういう世界を私たちは受け入れてゲームの世界に没入します。

その世界を様々な分野の専門家と眺めると、普段とは違う視点で楽しめます。普段ゲームをしない人も、興味のある分野の専門家がどういうところに着目するのか、というところに着目すると、現実の世界の見え方も変わってくるかもしれません。(T・K)

『日本史を暴く 戦国の怪物から幕末の闇まで』 磯田道史著 中公新書 2022

門前にとって珍しく好きな「売れている知識人」磯田先生の本を今年も紹介する。この本は、『読売新聞』に掲載された「古今をちこち」の記事をまとめたものである。なので、一つ一つの章が短く、かつ好きな所から読める。近世(江戸時代周辺)をメインとした「実はね…」的な話が散らばっている。テレビで拝見する磯田先生は、MEKのまじめ番組でも、民放のお楽しみ番組でも、実にイキイキと少年のように目を輝かせて歴史オタクっぷりを発揮してくれているが、彼のそのテキストを文章にした感じが読んでいて楽しい。一方で、幅広い知識を文献などにもとづいて扱う安定感もある。多かれ少なかれ進路に迷っている皆さん、大学って、こんなところですか!とコレ1冊で言えるかも(歴史学に限らず、ね...)。ちなみに、のやめ方とか、信長の遺体の行方とか、公家の花見とか:先生、なんで

小学生とコロナの給付金の話をしているんですかね?と、ツッコミ満載である。その合間に、新しい文書を発見したときの先生の苦勞(かなり私財を投入している...)とか、学者としての信念も見えたり。随所で心打たれる。



『差別は思いやりで解決しない ジェンダーやLGBTQから考える』

神谷悠一著 集英社新書 2022

タイトルの通りの内容です。著者自身も「GB」法連合会事務局長を務め、政府や地方自治体の関連案件の検討や施策に携わっている方です。大学の准教授として学生の指導に当たる中で、やたらと「思いやり」に言及する者が多いという気付きから本書は始まっています。いかに「思いやり」が思考停止をもたらすのか、事態を改善させないのか、ということや、異なる案件を混同させてしまうのか、というところが柔らかい文体で丁寧に具体例を踏まえて明らかにされます。自らの思考・発言を振り返り、納得することも多いはず。また、物事に對するアプローチの仕方をも教えてくれる1冊です。「あたりまえにある状

態」に疑問を投げかけ、他の人の考えなども踏まえて丁寧に検証していく姿勢はとても大事です。卒業までに読んでみてはいかがでしょうか。

『1400字の戦争 SNSが戦場を変えた』デイヴィッド・パトリカラコス著 早川書房 2019

告白しよう。紹介しておきながらまだ読み切っていない。ななめ読みであっても、読んでいない本を紹介することは(こういう場では)めったにないのだが、こういう本は「旬」もあるのだ、ぜひ今年紹介しておきたい。主にウクライナの戦争でおきている現実を描いている。また、「このなどのテロ組織の活動について描いている。かつては、吟遊詩人が、新聞が、ラジオが、映画が、テレビが、運んできた「戦場の様子」が今はSNSであふれている。ソーシャルメディアをいかに駆使するかが世界に大きな影響を与え、それが戦局を左右している。わかっている。ロシアのウクライナ侵攻で、私自身が強く感じたことである。ゼレンスキー氏が薄暗い路地裏に「わた



したちは負けない」と動画配信したあの時から、あらゆるソーシャルメディアが「戦略的兵器」として機能していることを世界(というか、鋭くないタイプの人々)というか、多くの人々、というか…)は再認識したのである。あなたが「まじうざい」と連打するそのツールも、武器なのである。中学生には刺激も強く、読みにくい文章だと思う。高校生諸君、この夏ともに読み切ろうではないか!! (S・M)

『不良少年の夢』義家弘介著 光文社 知恵の森文庫 2005

複雑な家庭環境で育った一人の「不良少年」が、ある学校の教師との出会いにより、「教師になる」という夢を持つ。どうしようもない不良が劇的に変化していく様子、また、壮絶な著者の半生がリアルに描かれていく。皆さんと同じ高校生とは思えない「世界」を知ることができ、夢を持つこと、一つの目標に向かって突き進むこと、熱い気持ちを忘れないこと、人と人との出会いや縁を大切にすること…読めば感じる、熱い男のストーリー! (H・W)

『世界の終りとハードボイルドワンダーランド』村上春樹著 新潮社 1985

世界というキーワードを聞いて、大昔に読んだこの本を思い出しまし

た。交錯する2つの「世界」に住む私と僕の物語。この物語の中の「世界」が何を意味するのか考えながら読んでみてほしいと思います。 (R・N)

『三千円の使い方』原田ひ香著 中公文庫 2021

あなたは、3000円あったら何に使いますか?様々な登場人物の3000円の使い方をめぐって、自分の生き方を考えることができます。(M・S)

『薔薇の名前』上下巻 ウンベルト・エーコ著 東京創元社 1990

次の解説本と併せて推薦します。推薦内容は解説本の方をみてください。

『世界を読み解く一冊の本 エーコ『薔薇の名前』―迷宮をめぐるへはてしない物語』 図師宣忠著 慶應義塾大学出版会 2021

『薔薇の名前』(ウンベルト・エーコ作)は、教皇ヨハネス22世時代の北イタリアのカトリック修道院を舞台に、フランシスコ会修道士バスカヴィルのウイリアムとベネディクト会の見習い修道士メルクのアドソが、怪事件の謎を解き明かしていくというミステリー小説です。この小説と解説本を今回推薦します。先に述べたように、「薔薇の名前」ワールドをより深く理解するためには、中世のキリスト教の知識が不可欠です。な

ので、解説本も小説を理解するため
にキリスト教の解説が中心になっ
ています。しかし、読み進めていくうち
に、解説を超えて中世ヨーロッパ世
界の様々な姿をも垣間見ることがで
きます。原本である「薔薇の名前」と
共に読むことをお勧めします。
(A・T)

『雲を紡ぐ』伊吹有喜著 文春文庫
2022

同級生の言葉に傷つき学校に行け
なくなつた高2の美緒。両親とも折
り合わず、染織職人の祖父のいる岩
手県盛岡へ。焦らず丁寧に羊毛を染
め紡いでいくように、美緒を見守る
祖父の姿、言葉には自分にも響くも
のがあるかも。ホームスペインの工房
に行つてみたくなりました。
(M・T)

『汝、星のごとく』 風良ゆう著
講談社 2022

瀬戸内海を舞台にした恋愛のお話
自分の世界を狭めているのは親との
関係？、環境のせい？、それとも自分
の意志が弱いだけなのか。
本屋大賞を受賞したとつても人気が
なお話です。恋愛小説としても面白
いですが、夢を追う若者たちの物語
としても面白いです。(H・T)

『日本のワインで奇跡を起こす！山梨
のブドウ「甲州」が世界の頂点をつか
むまで』三澤茂計、三澤彩奈共著
ダイヤモンド社 2018

ワインに関する書籍を推薦図書と
して生徒の皆さんに紹介することに
ややが引ける思いはあつたのです
が、ワインという飲料は松蔭中・高の
教えの根幹であるキリスト教と切つ
ても切れない関係にあるので、どう
ぞご容赦頂けたらと思います。

フランスやイタリア、スペイン、ド
イツといった、いわゆる「オールド・
ワールド」と呼ばれるワイン産出国
と比較すると、日本はワイン産出国
としては後進国です。ですが、近年、
ワイン用ブドウの栽培技術や醸造技
術の向上を受け、結果、日本ワインの
質が以前より飛躍的に高

躍的に高
まると、その
の評価が
見直され
ている向
きがある
そうであ
る。

この本
は、「グレ
イスワイ
ン」で知
られる山



梨県にある家族経営のワイナリー、
中央葡萄酒の三澤茂計氏と三澤彩
奈氏の父娘が、自身で育てたブドウ
でワインを醸造し、そのワインが世
界的なコンクールで日本初の金賞を
受賞するまでの大変な苦労と挑戦の
軌跡がつづられています。
また、早い段階で女性醸造家とし
て世界を見据え、フランスをはじめ
としたワイン先進国に身を置き、過
酷な状況の中でも高い志を持って挑
戦を続ける彩奈氏の姿に大変勇気づ
けられる思いがしました。
(R・B)

『Medium 霊媒探偵城塚翡翠』相
沢沙呼著 講談社文庫 2021

少し変わった推理小説を読ん
たい方や、この機会に推理小説を読
んでみたい方におすすめています。
この本は全4話で構成されており、
1話ごとにひとつの事件が起こり、そ
れを主人公が解決していくという流
れの面白いは、主人公の城塚翡翠が
普通の推理小説に出てくる探偵とは
違い、死者の言葉を伝えることがで
きる「霊媒」の能力を使い事件を解
決していくところです。また「すべて
伏線」というフレーズが本の帯に印
字されているように、この本に出
くる何気ない表現や描写までもが伏
線になっていくので、結末を知った
後に何度も読み返していく中で新し

伏線を見つけていることができるのも面白さのひとつになっていると思います。この本はドラマ化もしており、本を読むのが苦手な方はドラマを見てみるのもいいのかもしれない。普段から推理小説を読んでいる方も、これを機会に推理小説を読んでみようと思っておすすめる方が多いです。信をもっておすすめることができず、新しく斬新で、しかし今までの推理小説のように丁寧な伏線が張り巡らされた、最後の一文でひっくり返るような最高に面白い本になっています。(M・N)

『数学ガールの秘密ノート 確率の冒険』 結城浩著 3B クリエイティブ 2020

高校生の「僕」、いとこで中学生のユーリ、「僕」と同じ高校のテトラちゃん、ミルカさんが何気なく会話しながら、数学の話がすすんでいきます。確率の冒険、登場人物と一緒にしてみませんか。(K・S)

特捜部Qシリーズ

最新刊「9.ガールの罪状」ハヤカワ・ポケットミステリ

最新の文庫「8.アサドの祈り」上

下 ハヤカワ・ミステリ文庫

ユツシ・エーズラ・オールスン著

早川書房 2022

デンマークでたいへんよく読まれているシリーズ。北欧ミステリーに

は、背景にその時点での世界情勢が色濃くあるものが多いです。お国柄として政治的歴史的に複雑な事情を抱えていて、気候も特徴的、寒い、暗い。その時代、その場所を、悩みながらリアルに生きている人々がたくさん出てくるのが、とっても魅力的です。今回は、新刊が出たばかりの、ユツシ・エーズラ・オールスンさんをご紹介します。残念ながら、同好の士不在で寂しい限り。求む、北欧ミステリー好き！(M・U)

『旅するモヤモヤ相談室』

木谷百花編 世界思想社 2023

現役女子医学生が、現代日本人の心のモヤモヤの処方箋になるかもしれないと、大学の先生たちへのインタビュー内容をカルテ形式でまとめた本です。人の生き方や価値観は場所によっても様々。タシザニアで実際に行動した人になったり、ガーナや南インドで調査をしていて小人の姿をとらえたり?!世界各地を旅してきた先生たちのユ



ニークなお話を読むと、気になると、やりたいことがあるなら、その世界に飛び込んでみたらいい!そんなふうに思えてきます。(K・K)

『アーモンド』 ソン・ウオンピョン著 矢島暁子訳 祥伝社 2019

『クララとお日さま』 カズオ・イシグロ著 土屋政雄訳 早川書房 2021

主人公が感情のない世界に生きていく2冊。『アーモンド』の主人公ユンジュは偏桃体が他の人より小さいため、人間らしい感情の全てを感じることができず、教えられた方法に従って家族がいなくなっても1人で淡々と生活を続けています。『クララとお日さま』の主人公のクララは人間の子どもの成長のために開発されたロボットで、持主であるジョジョとジョジョの母親のために学習しながら暮らしています。感情を持たないユンジュは一見ロボットのようにも見え、逆にジョジョの為に献身的に尽くすクララはあたかも人間のように見えます。しかし、ロボットであるクララには人間の心にある「疑い」や「怒り」などの感情は表れてきません。今、世界中でAIが注目されています。結果だけを求めるのであれば、相手がロボットでも人間でも大差はないのかもしれない。その違い

があるとする、それは何なのか……。この2つの物語では、主人公が持っているいなさまは感情が、まわりの人間の中で（良くも悪くも）絡みあい、お互いの関係をつくつていくことに気付かされます。（K・M）

『旅をする木』 星野道夫著 文春文庫 1999

日々の生活に息苦しさを感じたとき、「いま所属している場所や人間関係が世界のすべて」とついつい思いがちです。でも、「今この瞬間、アラスカの海ではクジラがジャンプしているかもしれない」、そう想像するとふわっと世界が広がるように感じませんか。

この本は、アラスカに移住した著者が、現地の人との触れ合いや生活で感じたことを綴ったエッセイです。今この同じ時間に、世界のさまざまな環境のなかで人間や動物がそれぞれ時間を精いっぱい生きていく、そんなことを意識することができる読後は、自分の周りの景色が少し違ってみえてくるように思います。

(N・F)

『SNSの哲学 リアルとオンラインのあいだ』 戸谷洋志著 創元社 2023

哲学とは物事の本質を考えること。SNSを使う「あなたは何者なのか」を考えます。

イーねがほしくて素敵な自分を演出して、疲れてしまったりするよね。でもイーねがほしいこと自体は悪いことではない。他人に認めてもらって初めてわかる自分もある、とヘーゲルの「相互承認」の話がでてきます。ほかにSNS特有の時間や、炎上する言葉使いや、自分の好きなものだけに囲まれるアルゴリズムなどを有名な哲学者たちの思想で解説しています。

SNSだと政治の話もしやすくなつて、「アラブの春」や香港の「雨傘運動」の話がでてきます。#（ハッシュタグ）でつながる個人の不安定さを、ナチのた



めにドイツに亡命したハンナ・アーレントの考え方で補強します。他人とつながるからこそ一人ひとりの個性が際立って、大切なのだ、と。何が起ころとも仲間を「許し」、自分の活動を「約束」する、そうすればこの新しい連帯も強くなるだろう。

少し難しいです。けれど易しいことばで誠実に書かれている内容は、全ては無理でも、みなさんには分かる部分がある！SNSで流れてくる猫の画像を見ながら、考えてほしい本です。

(Y・M)

リストに載っている本で※絶版・品切れの本と雑誌のバックナンバーは図書館でしか借りられないのでお早めに。リストの本は必ず1冊は用意しますが、先着順になりますので、ご了承ください。

過去の先輩のPOPを展示していますので、イメージがわからない人は図書館に見に来てください。

図書館は8月4日(金)〜20日(日)まで閉館です。よい夏休みを！